

## 論文番号 4

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Association of Lifestyle with Serum Lipid Levels: a Study of Middle-Aged Japanese Men

日本人中年男性における生活習慣と血清脂質値との関係

執筆者

Nakanishi N, Tatara K, Nakamura K, Suzuki K,

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Journal of Epidemiology. 2000 Jul; 10(4): 216-225

キーワード

生活習慣、脂質、中年

要旨

今回の研究では大阪の35～59歳の事務系男性職員1,591人を対象に横断的に生活習慣と血清脂質値との関係を調査した。多変量線形回帰分析を行うと、BMI、年齢とLDLコレステロール値の間には正の相関関係が、アルコール摂取量とLDLコレステロール値の間に負の相関関係が認められた。また、HDLコレステロールについてはBMI、喫煙とは負の相関関係が、アルコール摂取、栄養バランスへの注意、早歩き、普通の速さでの歩行時間や運動と正の相関関係が認められた。中性脂肪値との関係についてはBMI、喫煙、アルコール摂取と正の相関関係が、栄養バランスへの注意、勤務時間やコーヒー摂取とは負の相関関係が認められた。また、LDL/HDL比との関係は、BMI、喫煙、間食、年齢との間に正の相関関係が、アルコール摂取、食事バランスへの注意、早歩きの時間とは負の相関関係が認められた。今回の研究では、日本人中年男性では、肥満、喫煙、間食が動脈硬化の要因であり、一方、アルコール摂取、食事バランスへの注意、長時間の歩行（とくに早歩き）が動脈硬化を防止する要因であることが示された。